

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
74	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Alcohol intake, drinking patterns and risk of postmenopausal breast cancer in Denmark: A prospective cohort study デンマークにおける飲酒と閉経後女性の乳癌発症危険度について：前向きコホート研究	
<b>執筆者</b> A Tjonneland, B L Thomsen, C Stripp, J Christensen.et al	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Cancer Causes and Control.Dordrecht:2003.14,277	
<b>キーワード</b> 閉経後女性、乳癌、アルコール摂取量、アルコール摂取頻度、前向きコホート研究	
<b>要 旨</b>  (目的) 従来の疫学的研究では乳癌と飲酒の関係が示されている。しかし、ある一定の飲酒量での飲酒頻度と乳癌発症危険度との関係は明らかにされていない。そこで、飲酒頻度と乳癌発症との関連を前向きコホート研究で示すことを目的とした。  (方法) 食習慣、発癌と健康についての前向きコホート研究 (Diet, Cancer and Health) にて、乳癌と総アルコール摂取量、アルコール摂取頻度の関連を調べた。対象は 23788 名の閉経後女性で、そのうち 425 名が乳癌を発症した。観察期間の中央値は 4.8 年であった。  (結果) 総アルコール摂取量と乳癌発症率の量反応関係をみると相対危険度は平均総アルコール摂取量 10g/日あたり 1.10 増加した (95%信頼区間 1.04-1.16)。アルコールの種類による違いは認めなかった。乳癌発症危険度においてアルコール摂取頻度と総アルコール摂取量の相互作用はなかった (p=0.40)。  (結論) 本研究の結果は、従来の閉経後女性の乳癌発症危険度は日々の平均総アルコール摂取量が増加するにつれて増加するという結果を支持した。これらの関連にアルコール摂取頻度は影響を与えていなかった。	